

市の動き

きたかみ景観資産 新たに4件認定

平成27年度第2回北上上市景観審議会は3日、本庁舎で行われ新たに4件の景観資産を認定しました。これで、きたかみ景観資産は106件となりました。新たな景観資産の認定団体には、28日開催の「『あじさい都市』きたかみまち育てフォーラム」のきたかみ景観資産認定式で、認定通知書と認定プレートを贈呈します。

■新たに認定された景観資産
 ◇No.103 雄大な田園と夏油三山を望む 飯豊八幡神社
 油三山を望む 飯豊八幡神社
 (所在地)飯豊16-39



No.104 御霊を癒す 遍照寺の盆灯



No.103 雄大な田園と夏油三山を望む 飯豊八幡神社

(団体名)飯豊八幡神社氏子総代会

◇No.104 御霊を癒す 遍照寺の盆灯
 (所在地)二子町宿西96

(団体名)二子町振興協議会

◇No.105 花とお地藏さん癒しの空間 慶昌寺
 (所在地)和賀町煤孫18-208

(団体名)法幢山慶昌寺護持会

◇No.106 四季の彩り豊かな全明寺・鐘楼堂
 (所在地)下江釣子16-176

(団体名)曹洞宗日月山全明寺護持会



No.106 四季の彩り豊かな全明寺・鐘楼堂



No.105 花とお地藏さん癒しの空間 慶昌寺

株式会社岩手銀行と地方創生の連携協定締結

株式会社岩手銀行(田口幸雄頭取)との地方創生に関する連携協定調印式は19日、本庁舎で行われました。

調印式には同行の高橋真裕代表取締役会長と高橋敏彦市長が出席。高橋会長は「新しいまちづくりの実現のために協力したい」とあいさつし、高橋市長は「総合戦略

の実現に向け、協力いただけることに感謝します」と述べました。

協定内容はシティプロモーションの推進、創業支援や新事業開発支援、2019ラグビーワールドカップや2020東京オリンピックに関する取り組み支援など9項目。北上市まち・ひと・しごと

環境まちづくり報告会を開催

北上市あじさい型スマートコミュニティ構想モデル事業報告会(第1部)と北上ライフスタイルデザインプロジェクト平成27年度活動報告会(第2部)は2日、生涯学習センターで行われ、市民など86人が参加しました。

第1部では、再生可能エネルギーの地産地消や災害に強いまちづくりに向けた取り組みとして行ったソーラー発電所の整備や防災拠点への分散電源の設置などについて報告。その後、「スマートコミュニティ

の動向」と題して株式会社NTTフアシリティーズ東北支店の副支店長兼スマートコミュニティ推進室部長の矢野哲臣さんによる自治体のエネルギー活用についての講演が行われました。

第2部では、本年度のプロジェクトのメンバーが、将来起こりうる環境・社会問題を想定した中で、北上らしく心豊かに暮らす「展勝地ライフスタイル」を提案しました。最後に、東北大学大学院環境科学研究科の古川柳蔵准教授が「未来の暮らし方を育む泉の創造く北上から考える未来の心豊かな暮らし方」と題して講演。共同で北上の暮らし方について研究することから、「東北大学未来の暮らし方を育む泉の創造北上研究室」の看板を及川義明副市長に手渡しました。



握手を交わす高橋市長(左)と高橋会長(右)



及川副市長(右)に看板を手渡す古川准教授(左)

第4回北上市基本構想等審議会を開催

する」と答申しました。

平成27年度第4回北上市基本構想等審議会(中村好雄会長)は1月20日、本庁舎で開催され「北上市総合計画後期基本計画(2016〜2020)案についての答申書を高橋市長に提出しました。

同審議会は、これまで3回にわたる審議の結果を踏まえ、計画案について「おおむね妥当である」とした上で、「計画が市民の積極的な参画のもとに着実に推進されるよう要望



高橋市長(左)への答申書提出に際し意見を付す中村会長(右)

子どものための防災備蓄品を充実

災害発生時における子どもの安全と安心を確保するため、子どもや子育て家庭のための防災備蓄品を充実させます。

※この事業は、国の「地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金」を活用しています。

1 授乳室用などのテントを配備します

災害時に、授乳室、更衣室、おむつ交換などのための個室として使用できる「災害対策用テント」を第1次収容避難所や福祉避難所に配備します。

2 食物アレルギー対応粉ミルクなどを備蓄します

「食物アレルギー対応粉ミルク・離乳食」、「湯沸かしボックス」、「使い捨て哺乳瓶」を市の防災倉庫に備蓄します(アレルギーを持つ乳幼児が被災した場合の3日間分相当量)。



市は、従来から保存食、保存水、毛布、携帯トイレ袋、紙おむつ、粉ミルク、哺乳瓶などの備蓄を進めていますが、各家庭においても災害に備えて3日〜1週間分を目安に生活必需品の備蓄をしておきましょう。

問い合わせ 消防防災課 ☎72-8306

市内の避難者状況

(1月31日現在)

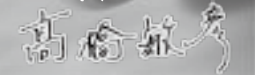
県市町村	宮古市	山田町	大槌町	釜石市	大船渡市
世帯	2(0)	13(0)	27(0)	18(0)	9(0)
人数	4(0)	25(0)	44(-1)	36(-6)	17(0)
県市町村	陸前高田市	宮城県	福島県	合計	
世帯	9(0)	10(0)	9(0)	97(0)	
人数	11(0)	17(0)	19(0)	173(-7)	

※()は前月比。市で把握している人数です。市内に避難している人で、まだ北上市に連絡していない人はご連絡ください。

珈琲ブレイク

49

北上市長



アジア経済視察その二

ミャンマー編

ヤンゴンは1月でも気温30℃を超える。ジェットロヤンゴン支局長の山岡氏によると、ミャンマーはアジア一番の親日国で、森の国と呼ばれるほど未利用地が多く、ラストフロンティアとして各業種こぞって進出し始めているそうだ。産業は農業が主で、天然ガスや豆類などを輸出している。工業製品は主に輸入で、そのトップが中古車、うち9割が日本車で、トヨタが多い。

直近の総選挙でアウン・サン・スーチー氏率いるNLD(国民民主連盟)が勝利し、民主化が進もうとしているが課題はまだ多い。特に通信、電力、物流インフラが脆弱である。投資は簡単ではなく、民間が参入できない分野や活動禁止分野もある。企業は一株でも外資があると外国企業になり、輸入が規制される。ただし、ティラワは特別で、免税や規制が緩やかな経済特区になっている。

視察したティラワ経済開発特区は政府主導型の開発が急ピッチで進められている。しかし、高速道路などのインフラがまだ整備されておらず、市街地からは悪路の中、1時間余りかかる。日本企業グループによる整備で、計画面積は当市団地総面積の約4倍に当たる2400ヘクタールと広大である。現在54区画が予約済で4社が創業、17社が建設中で、中にはワコールやスズキなどの名前もある。

ごく短い視察であったが、最後にシュエダゴン・パゴダ寺院を観ることができた。パゴダとは4層から成る仏塔のことであり、地獄、現世、来世、涅槃を可視化したもので、まばゆいばかりの黄金でできている。ミャンマーは戒律の厳しい仏教国で、そのためかチャリティー世界一の文化が根付く心豊かな国である。今後、更に開発が進んでも、心の豊かさは失って欲しくない。合掌。